

今年も矢部高校日本拳法部が全国大会出場!!

5月31日と6月1日に熊本武道館で開催された、熊本県高等学校総合体育大会日本拳法競技において矢部高校が全国大会への出場を果たしました。全国大会を決めたのは団体戦が女子、個人戦では女子が3位までを独占。2004年に創部され、指導にあたられている濱監督のもと、これまでも数々の成績を残してきました。部員は男女合わせて9人。少



全国大会を前に練習にも熱がこもる

ないながらも、日々熱の入った練習を繰り返して、今年もまた全国大会への切符を手に入れました。
現在、3年生で主将を務める藤川千夏さんは、「全国大会出場が決まり嬉しかったが、更に頑張らないと気持ちを入れ替えた。全国大会では単体でベスト8以上を目指す。」と意気込みを語りました。



(前列) 藤川千夏さん、岡本優衣香さん、黒田知誉さん、田中沙季さん、渡邊ゆいさん

熊本県立矢部高等学校 八朔祭「大造り物」奮闘記

熊本県東部に位置する山都町。この町の夏の風物詩として有名なお祭りが「八朔祭」です。中でも町の中心街を引き廻す「大造り物」は有名で、毎年県内外から、たくさんのお客で賑わいます。熊本県立矢部高等学校の生徒も、毎年「大造り物」の製作に参加し、地元のお祭りを盛り上げています。

◆八朔祭のおこり

山都町の八朔祭は、宝暦八年（一七五八年）に矢部郷の不作を心配した細川藩が、矢部手永の庄屋に命じて豊作祈願を行ったのが始まりといわれています。その歴史は通潤橋よりも古く約二五〇年前から町民によって代々受け継がれてきました。祭当日、旧暦の八月一日は別名八月の朔日と表現されることから「八朔祭」と呼ばれるようになりました。

◆八朔祭の特徴

八朔祭は迫力ある「大造り物」の引き廻しが有名で、この祭りは、浜町中心の商家の方々が日頃商店街で買物をしてくださる農民への感謝と日頃の労苦を慰め地域の方々楽しんでもらおうと大造り物を奉納するようになったといわれています。

杉・檜・竹・松の皮・萩・ススキ・シユロなど山野に自生する材料を使うのが特徴です。高さは三メートル程もあり県下でも最大の大きさです。町内の各組が技術を競いあひながら造りあげ、その年の世相風刺や庶民の願望などを上品な洒落を交えて表現します。

◆矢部高校（緑科学科）歴代造り物

		
平成22年度 「熊往邁進・・・ 熊のように勇ましく」	平成21年度 「矢部高校タイガー頑張ります」	平成20年度 「自分の夢に向かってモウ突進」
		
平成25年度 「飛翔」 無限の可能性を翼にのせて 未来に向かい、 矢部高校生は羽ばたきます。	平成24年度 「あたらしか矢部高ばってん G(天狗)OODな伝統受け継いで、 矢部高校生は羽ばたきます。」	平成23年度 「幸運を運ぶなまはげ」

◆生徒実習内容（昨年度の模様）

「大造り物」は緑科学科一、二、三年生全員で作成します。六月上旬から製作に取り掛かり、夏休みも、当番を組み、ほぼ毎日午前中作業を行い完成させます。

	
ススキの穂を束ねて、 羽を作っています。	選定はさみで、杉の皮をカット中。
	
胸の上の首回りに使っ ているハギを、葉っぱ をとり枝だけにし、束 ねているところ。	足は、ケヤキの皮を細かくし、張り付けています。
	
羽の部分に使うススキの穂をとっているところ。	

当日の大造り物の引き廻しは、
緑科学科1年生で行います。

今年も力を合わせて、
矢部高校生らしい
「大造り物」を製作中です。
是非、私たちが製作した
「大造り物」と「八朔祭」を
見に来て下さいね!

今年の矢部の八朔祭は平成26年9月6日(土)・7日(日) ※大造り物引き廻しは7日午後1時～